寫眞週報

內閣情報部編輯
七月五日・第七十二號・十セン

支那事變二周年

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

支那事變二周年

日章旗の波、五色旗の渦
歌呼する中國人の壁は廣場
を壓し街を覆ふ
日本よ、あの日、われら
を殘死より救ひ、わか新中
國を焦土から築きあげつゝ
ある日本の手よ、われらは
いまこそ日本の情けに感し
日本の力を信じつゝ新らし
き東亞の建設に力の限り、
邁進することを誓ふ
湧れ果てた血の管に血潮
わき立つ一億七千萬民衆の
頭上に輝かしい明日の希望
はほゝえむ

一億一心 百億貯蓄

徴兵保険
教育結婚保険

益業案内
贈呈

第一徴兵

本社 東京銀座

戦地にみる建設

『新しい支那は俺等若い者の國だ』小さな大工さんの口を突いて吐かれたこの語は抗日軍兵士として拉致された親に別れた子が打下す斧に力を添へる合言葉でもあつた。

⇧わが空爆に、砲撃に破壊された中山門は敵の防禦城壁から新支那建設の標示板に新装、行人の足を止める。

盧溝橋の銃聲一發わが軍が直に占據した恩ひ出の一文字山はいま主要道路として建設が進められてゐる。⇦

あの丘も、この街も敵自らの破壊に支は砲火に廢墟と化し、支那事變を物語つた激戰地のあそこ、こゝにはやがて生れる新しい歴史の歩みに力強い建設が續けられてゐる。

破壊は新らしい建設の前提でもあつた。過去一世紀に亙る群雄割據による内政の不統一から來る壓制や外力浸潤の桎梏下に一時は全く無氣力となつた支那四億の民衆は宿命であつた支那事變を機會に、いまこそ新らしい角度からアジア民族の團結意識に燃え新支那の建設に向つてゐる。

民衆の心中に盛上る眞摯な建設意識は打振るハンマーに、揮ぐモツコに、打つのみに、明日への希望を刻んでゐる。

撮影　同盟通信社　上海プレス・ユニオン

⇧南京はいま清澄な水を市民に飲ませようと新政府の監督下に水道濾過池の復舊工作に忙しい。支那が傳染病から救はれる日も近い。

想ひ起す事變二周年——二年前の七月七日東亞の風雲を捲き起した河北省盧溝橋の橋上は初夏の陽に駒犬も嘶き、建設材料の往來もはげしい。⇦

⇧攻略後十ケ月中支の商業都市漢口の復興ぶりは目ざましい。目貫き通りの各ビルは足場もガッチリと建築が進められてゐる。

⇦上海市街戰のあの閘北、わが軍が攻めに攻め廢墟と化した閘北も復興の歩を進める。

經濟開發は進む

棉

米國、印度についた棉花の產地支那、河北省を中心とした棉畑はいま一面に綠の木が芽をふいて、濶つた褐色の土の上に若々しい綠の葉がすく〳〵とのびてゐる。

支那全土で生產される棉花千六百三十七萬ピクル（昭和十一年調、一ピクルは十六貫匁で晒布圓約十枚分の綿）の約三分の一を產出する北支の農民はすく〳〵と伸びる棉の木の生命に新支那の息吹を感じ「平和來」を謳歌してゐる。

事變前棉花の出廻り四百五十萬ピクルあつた北支は戰火の餘燼未だ治らなかつた昨年でさへ三百三十萬ピクルの出廻りをみせ、先づ棉花は經濟建設の花形となつた。

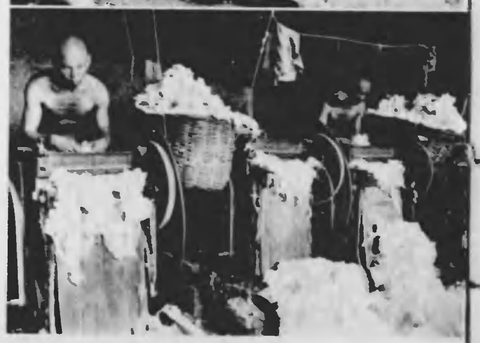
從來實が惡いといはれた支那棉も、品種が次第に改良され、年々增產の一途を辿つてゐる傾向にある。

棉花資源を全部外國に仰いでゐた日本は支那棉花の大量出廻りと同時に、東亞新秩序建設に手をたづさへて進む仲間の間から相當多くの棉花を得て有無相通ずる經濟結合の實を着々と收めてゆく。

長閑な五月の空、牧等は畑に出て棉花の種子を播いた。夫は馬で畑耕せば、妻の手から種子は靜かに大地のふところへ。

廣漠たる畑に棉の芽は伸びる。秋の收穫を胸に子供等は若芽の間引に忙がしい。

收穫された棉花の山から種子を拔きとる老婆の腕には、一昨年支那事變に犧牲された夫の影が浮ぶ。



大陸の殘暑はきつい。九月のとり入れと同時にむせ返へる暑さの中で棉花の種子をとる。

棉花の相場は一ピクル約六十圓見當である。買取人の秤る手許に一瞬六ヶ月間の努力の眼が注がれる。

北支刋北省の小さな部落から棉花は晉縣の取引場に山と運び込まれる。

晉縣から積出す棉花は馬車に引かれ蜿蜒地平線に沒す。

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

毎の紡績

支那の棉花生産は各地の治安と交通の改善から従來自家用とされてゐたものまでが、紡績原棉に變り、いまや棉花は商品としてどん〳〵捌けてゆく傾向となつて來た。

こゝにわか上海の紡績、紡織事業は活氣となり、その製品は殆ど全部が支那内部に捌かれてゐる。

從つて支那が、いままでわが國以外の第三國から輸入してゐた綿布は必然に減少、自給自足による經濟機構の健全な運用が徐々になされつゝある。

⇧ 加工場は黄色がかつた原色を白色に晒す。純白の綿は紡がれ綿絲となる。

經濟開發は進む

⇧ 上海のわが東洋、上海南紡織工場は最新の設備を施し紡絲に全機能をあげてゐる。見渡す工場は紡紡機、絲紡機、精紡機が一齊に動いてゐる。

⇨ 整經機に捲かれた綿絲は織付けし整經する。布に織る縦絲の準備工作に職工は忙しい。

⇦ 綿布は出來上つた。彼はないか檢反場では結紐の女工が電燈に透かして調べる。

⇦ 年々增産を辿る棉花といもに紡織も活發となり綿布は山の如く生産される。

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

鐵と石炭

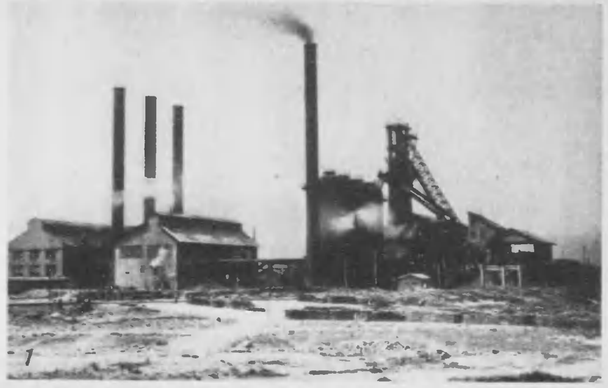
4

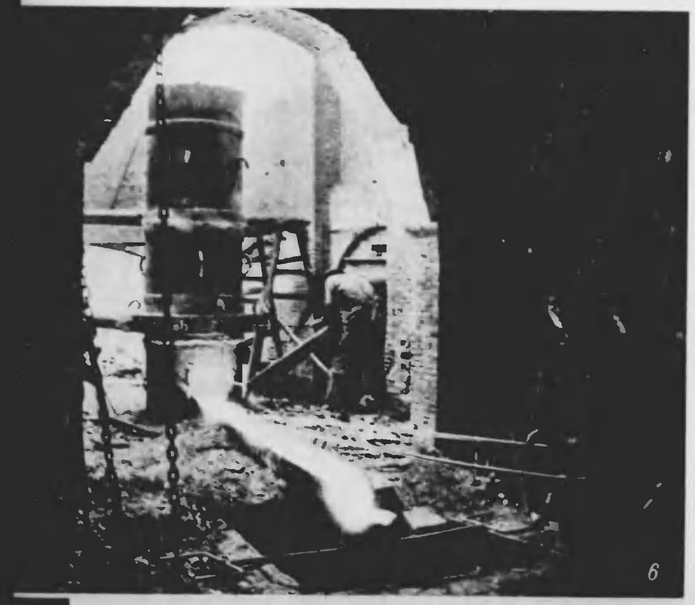
兵火のあとに河北省の石景山製鐵所は昨年末、火入れをし熔鑛爐はうごきだした。戰禍に遭つた送風管その他の修理も今は全くなり日本製鐵會社と興中公司との協力で鐵鑛の生產擴充に奮闘がつゞけられてゐる。

鐵鑛は龍烟から、コークス製造用の石炭は井徑と六河溝から、石灰は石景山の附近から、それ〳〵運ばれ、東亞經濟ブロック建設の力強い產業を象徴する黒煙はこゝ北支の一角にもあがつたのである。

上海の對岸、浦東にある中山熔鑛爐も石景山について動きだした製鐵所である。

なほ、これらの鐵は主として大陸の需要にあてられてゐる。


1


6

5

1.2は石景山製鐵所。
3.4は井徑の炭坑。
5.6は浦東の中山熔鑛爐。

2

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

事變第二周年を迎へて

陸軍省情報部

支那事變勃發以來既に二ケ年を經過し、玆に早くも第三年の七月七日を迎へるにいたつた。この間擧國の犧牲の下皇軍の勇戰奮鬪と銃後國民の一致團結とによつて、武漢を始め支那本土の要衝悉くわが手に落ち占領地域はわが帝國全土の二倍に餘り、一億數千萬の支那民衆は、玆に始めて覺醒に浴するの機に際會した。今や東亞の天地の一角に新秩序建設の機運は濃厚として强り始めた。われ等はこの二ケ年の輝々たる戰果を追憶するに當り、先づ以て大業の人柱となつた六萬の英靈に感謝の誠を捧げねばならない。

東亞の新秩序建設、これぞわれ等に課せられた天の大使命である。われ等は今新秩序建設の敵と戰ひつゝあり、又戰はねばならない。この敵をはつきり突き止めることが、われ等の覺悟を固めるための前提要件と考へる。

いく度か兵火をうけた大地も、主の贈りを待つてゐた。打ち込んだ鍬から放つなつかしい土の香が、この一家の心を二年前の「吾が家」にひき戻した。父と母と三人の子は日の丸のもとに刈取られるこの秋の收穫を夢みてゐる。家も直さう所も開はう。

鉄路・バスは伸びる

資源の開發、産業の振興には何といつても交通機關の復舊發達が先決問題である

支那軍は退却の際にはわが軍の急追を恐れてきまつて鐵道や道路を打壞してゆく、橋といふ橋は全部爆破し、枕木はらひ、鐵道はレールから枕木まで持つて逃げる。これを後から後からと修理してゆくわが軍や、現地滿鐵の鐵道省從業員の苦勞は大へんなものであるしかし、その敢身的な努力と科學日本の優秀さはつひに凡ゆる困難を征服して、占領地域内の交通を事變前よりもむしろ良くしたといへる

1・2　中支には昨年十一月華中都市公共汽車公司が設立され、上海、南京等八都市にバスが開通した。支那で汽車といふのは自動車のこと車站(停留所)にバス待つ姑娘も、日本式にカバンを前にさげてサーヴィスする姑娘のバスガールもにこやかに新支那を點綴する。

3・4　敵の遊撃部隊はいまもなほ鐵道をねらつて出沒することがある。わが警備兵は奥亞建設の生命線鐵道を護るためにも晝夜敢として警戒の眼を離さない。

5・6　わが陸の荒鷲に繰り返し、繰り返し爆撃された津浦線の保定驛も占領後一年八ヶ月、すつかり復舊した。浦口發北京行き列車が貨客を滿載して到着した。

7　上海――南京間を結ぶ海南線は急行六時間で兩都を結ぶ。海杭、蘇嘉兩鐵道も修理が出來た。農夫も商人も夫々仕事が忙しくなつたゝめか、どの列車も滿員の盛況だ。

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

興亞院技術部長　宮本武之輔

1

四月十六日神戸を出航した上海ゆきの太洋丸に一

萬五千噸の巨船で、設備は少し古いが、昇降機の設備があり、食堂など日本人中とは思へない位に天井が高くて豪壮だつた。夜はそこで演藝會などの餘興が催された。

折よく華中連絡部の津田長官や森文化局長、鐵道省の上海派遣事處の加賀山氏などが同船され、上海到着までの三日間はデッキ・ゴルフやブリッヂに時の移るのを忘れた。

東支那海は揚子江口に近づくに從つてガスが深くて船は航行の自由を奪はれ、黄浦江に這入つたのは十九日の午後だつた。黄浦江には日章旗や海軍旗を掲げた淨山の船舶が或は碇泊し、或は航行してゐた。陸海軍の御用船である。それらの艦船と萬歳を交換しながら黄浦江を遡江するときには、さすがに力強い感動が感ぜられた。

午後三時楊樹浦碼頭に繋留して新亞細亞ホテルに投宿したが、當時華中連絡部事務所はそのホテルに置かれてゐた。

上海滞在の三日間は陸、海、外、各現地機關の歴訪と、華中水電會社の閘北水道と發電所、華中水産會社の上海魚市場、華中電氣通信會社の眞茹無電臺、上海恒産會社、中支鐵道會社（當時は中支軍鐵道局）上海自然科學研究所などの視察とに費された。

かうして日支合作、日支提携による大陸の經濟復興が着々として具現してゆくのは、東亞協同體建設のために、誠に慶祝に堪へないところであるが、蘇州河以西の共同租界や佛租界には今なほ日本人が出入することを憚り、上海の經濟力が今なほ租界に掌握され、在留日本人が大部分、ネーヴー・カットやスリー・キャッスルのやうな外國煙草を飲用してゐる現狀を以てしては、中支經濟建設の前途極めて遼遠であつて、我國民としては實に並々ならぬ努力を必要とする所以が痛感された。

2

二十二日は早朝北站から杭州ゆきの汽車に乘つた。當時上海杭州間の直通列車は二日一往復で、車輛には支那人旅客が長い行列を作つてゐたが、汽車に乘れるのは僅にその半分ぐらゐで、殘りは午後の列車まで取殘される有様だつた。

列車内の坐席は軍人用と旅人用とを區別してあつた。發前は軍用列車にたとへ便乘を許されても、携帯の丸籐當に僅かに餌を喰ばなければならなかつたといふのに、今では中間驛の嘉興では支那人の少年が日本語で辨當や茶を賣つてゐた。而もそれらの鐵道は停車場といはず、橋梁といはず、トーチカを設けて警備兵に護られてゐるのである。眼前の急激な變化の思ひで、私は車窓からそれを見遣つた。

鐵道沿線には、麥、蕃豆、菜種、紫雲英などの畑が多くに日本内地の風物を髣髴せしめた。農家の軒に新しい五色旗が翻つてゐる。家の造りも北支や滿洲あたりと違つて、日本の農家に似通つた點が見出された。

西湖を横る程景によつて、その名を謳はれる杭州の風光は眼覚めるやうに美しく、その間に點在する廟宇や塔なども眺望された。〇〇部隊本部に僧寺をつかつて、點沙河水道や錢塘江橋梁、閘口發電所などを視察した。錢塘江橋梁は支那軍が退却に際して自慢したといふ破壊したばかりの新しい橋梁で、錢塘江の對岸には支那軍のトーチカが見え、時々は機關銃などを打ちかけて來るといふことだつた。

淨慈寺、雲林寺などを訪れ、西湖畔の數々旅館といふのに泊つた。ベランダから見渡す西湖は我國の琵琶湖と言ふ感じで、姑娘が一見と東海の一つなど、日本の事を片言交りに喋ふのが、淡い感傷を誘つた。

翌朝の西湖の眺望はひとしほ美しかつた。翌朝七時半頃の汽車に乘つて杭州を立ち、正午上海に歸つた。

共同租界の永安デパートで二、三の買物をするに、日本人に對して可なりの敵意を抱いてゐるらしい店員の態度や應對は昭和十年來遊のときとは甚だしく相違であることが感ぜられた。

3

翌二十四日朝八時半上海北站を立つて南京に向つた。途中で蘇州を過ぎた。蘇州絹と蘇州美人とを以て知られる吳の古都である。昭和十年の修遊の土地であるだけに、古い城壁や、北寺の塔や、虎邱などが懐しい記憶を喚び起した。

無錫からは大運河が線路に平行する。鎖江では金山寺の塔が見えた。南京城外獅子山砲臺に近い下關車站に下車したのは二時半だつた。挹江門を這入り中山北路に面した亞細亞ホテルに泊つた。もとの首都飯店である。そのホテルを始め、目下〇〇の置かれてゐる外交部、その他眼ぼしい建物は何れもカモフラージのために、外壁を鼠色に塗り潰してあるのが如何にも慘憺な感じを與へた。

維新政府や陸、海、外各現地機關を歴訪して夕方ホテルに歸つたが、今の南京は發都のやうな活氣ある街に變つてしまつてゐた。人口からいふと事變前の百十萬のうち五十萬が復歸してゐるといふのに、電燈は事變前の五十萬燈のうち復興してゐるのは五萬燈に過ぎないといふ。それによつても復歸者の多くは細民階級であることが推測される。

翌朝は水西門を城外に出て江畔の水道と放送局とを視察した。支那の水道は閘北水道が急速濾過機を使用してゐるほかは、杭州にしても、南京にしても沈澱と塩素滅菌だけで、濾過池の設備がないのは近代的水道としての資格を具へないものだ。上海の蘇州河に鮒詰めになつてゐる民船の船頭が平氣で汚物を河へ流し、また平氣でその河水を飲用してゐる徹底した不衛生振りは、驚嘆のほかはないが、さうした驚異的抵抗力を持つた支那人なればこそ、濾過しない揚子江の水を飲んでも平氣でゐられるのだ。

日本人が大陸に進出するためには衛生狀態の改善を先決條件とする。北滿の移民部落においても、前途有爲の多數の青年を收容しながら、衛生狀態の改善に意を注がなかつたゝめに、結核患者が續出した如きは、國家的の由々しい問題である。

華中水道會社（水道と電氣）の當面の要務としては、第一に設備の改善が擧げられなければならない。幸にしてこの夏から南京には急速濾過機が設置されるといふことであつたが、各地の水道に濾過設備を設けることは、何を措いても斷行されむことを切望する。

4

私に言つて東部防衛司令部の防空施設研究會の委員を依嘱されて、一年間防空施設の研究に從事したことがあるが、南京の防空施設を視察して教へられるところが尠くなかつた。特に南京放送局の防空施設や、中山北路の防空壕などには、多くの示唆を與へられた。

光華門、中山門の戰跡、中山陵、明孝陵、紫金山天文臺、下關碼頭などを次々に視察したうちで、特に私の興味を惹つたものは紫金山にある渾儀、簡儀と稱する砲金製の大體觀測儀だつた。それが明の英宗正統年間（一四三六―四九年）の製作に係るといふのを見ても、古代支那の學術の偉大なる發達が窺ひ知られる。特にその渾儀の方は北清事變のときたかに獨逸軍に掠奪されてポツダムの宮殿に持ち去られたのが、歐洲大戰後の平和條約で支那に還されたといふのだから面白い。

二十六日朝七時半ホテルを出て、下關の中央電發電所を視察してから、發動機船で揚子江の渡江を横きつて浦口に渡つた。津浦線の終端驛である。午前九時浦口發、津浦線は四月一日から北京浦口間に、旅客列車一、貨物列車二の三列車を直通させることとなつたが、日本側の鐵道連絡による貨物輸送の確實迅速なことが漸次支那人の信用を得て、津浦線の直通以來貨物の出廻りが極めて良好であるといふ。日支合作はそこから始まるのだ。

鐵道の苦力は從前は一日二、三十錢の賃銀だつたのを、目下は五十錢の賃銀を支拂ふさうであるが、能率は日本人鐵道工夫の三分の一ぐらゐに過ぎないといふ。案内のために同車してくれた鐵道職員に對して私は工夫養成法のことなどを話した。

浦線の民家は敗殘兵を近づけないために燒却したので、土民は一旦四散したが、今ではぼつ〳〵復歸して、水牛などを使つて水田を耕してゐる好もしい風景が車窓に展開していつた。

5

二時蚌埠に着く。これから北は昨年支那軍の手によつて堤防を決潰された黄河の氾濫區域である。滅水した黄河は今では淮河の支川潁水を經て淮河に合流し、洪澤湖や高寶湖に流入してゐるが、開封西方の決潰箇所にして放任せられる限り、今年の出水期には又もや黄河の全水量は河南、安徽、江蘇の農耕地に氾濫するであらう。それを思ふと無心に畑を耕してゐる農民に心からの同情が表される。彼等は黄河が切れてゐることを知らず、ましてそれが自國軍隊の所業であることも知らないのだ。

定刻よりも一時間半遅れて九時半徐州に着いた。翌日は黄河の決潰情況を見るために開封まで行くつもりで、朝七時徐州から隴海線の混合列車に乘つた。

中間驛蒋萬でも日本流の鮨などを賣つてゐた。初夏の暑さである。車窓の外に黄塵が飛ぶ。河南省は西に進むに從つて地味が瘠せ、荒漠地帯が多くなる。樹木は槐、楊、アカシヤ。作物は小麥であるがその小麥の發育は極めて悪い。黄河から灌漑用水を引いて土地改良を行つたならば、現地耕地の收穫を倍増し得るは勿論、新に莫大な面積の耕地が開墾される見込が十分にある。

農村出身の兵隊で除隊休役後は再び大陸に歸つて來ることを希望するものが尠くないといふ事であるが、中支には殆どその餘地はないとしても、北支には土地改良によつて日本農民の大陸進出を可能ならしめる餘地が多分にある。

夕方の六時前に開封についた。北宋の古都で、今では河南省城の地、人口は事變前の三十萬のうち復歸二十萬。意外に美しい近代的市街である。黄河の研究するには開封が最もよく、事變前にはここに各國經濟委員會の黄河水利委員會が置かれてゐた。

黄河は二箇所で決潰してゐた。決潰口は上流の東水關が三百米、下流の三義寺が三百二十米で、三義寺は目下締切工事中で近く完成する筈だが、東水關の方には對岸には支那軍が對峙してゐるので、これを締切るとなると、また支那軍と衝突する危險があるので、當分は手を着けないといふことであつた。

前線近くの特務機關や實權者の活動には心からの敬意が表せられた。前線の日本軍と支那土民との間には親善關係が結ばれてゐるのに、却つて後方ではぼろ儲けを夢みる所謂一族組の進出がその折角の親善を害し、支那人の怨を買つて排日思想を植付ける觀念があるといふのは遺憾に堪へない。

6

翌日は〇〇部隊の新開線（新鄭開封間）建設工事を視察に行つたが、恐るべき黄塵で大地暗冥、お蔭で頭髪から靴の中まで、すつかり黄塵に塗れた。そのために北京からの飛行機は新鄭から引返してしまつたので、開封から北京へ行く豫定を變更しなければならなくなつた。

その日は開封に泊り、翌朝七時二十分又もや混合列車で開封を出發。退屈な十一時間を汽車の中で過して六時二十分徐州に引返した。その時分でも徐州は氣温二十五度、正に大陸の暑さだつた。拭いても拭いても額に汗がにじむ。

八時二十分津浦線の列車に乘つて徐州を出發。統台に一睡すると翌朝の七時半青南に着いた。商埠地の街路にアカシヤの白い花がほろほろと落れた。午前中は、〇〇部隊、青南鐵路局、青南工程局などを歴訪したが、鐵道沿線の治安確保のために近頃愛護村制度が設けられ、青南鐵路局管内でも、膠濟、津浦西線を通じて愛護區九十、愛護村一千五百、愛護班三千二百を數へるといふのは、誠に喜ばしいことである。

午後は小清河、洛口の黄河鐵橋などを視察した。黄河には今一條の流水すらなく、一千二百米の鐵橋は砂漠の上に長虹の如く架つてゐる。黄河の表流水が全く涸渇してゐるのに、駒奕泉、黒虎泉、その他の清南の七十二泉が食々として湧出してゐるのはそれが遠く山麓省あたりからの黄河の伏流でもあるかと思はれる。氣温三十三度七分。正に酷夏の酷暑である。

明くれば五月一日。連日の晴天續きに、その山東省公署では開乞の式典が行はれると言ふことだつた。最新の技術は灌漑工事によつて旱害を克服し得る方法を教へてゐるのに、今なほ官廳の祭事として雨乞を行ふといふところに、支那の面目が躍如としてゐる。

午前八時前青南発、膠濟線の列車で青島に向つた。山東の臺地は自然の風物が日本内地に酷似してゐる。小麥は益々矮小になる。張店までは線路強度が王三、張店以東は王五〇で急に列車の速度が増す。膠濟の車輛計畫も青島の港灣施設と同時に解決せられなければならない問題だ。

午後九時高密、七時着口。ここから青島までは海岸ひと筋、或は破壊されたもの、或は新しい紡績工場が續いた。八時青島に着き、四年振りにグランド・ホテルに投宿した。滿月に近い月光が靜かな港内に銀波を漾はす。

7

翌日は午前中連絡部青島出張所、陸、海、外、各現地機關、特別市公署などを歴訪。午後は白沙河水道水源地、青島港埠頭などを視察したが、白沙河水源地は市街から二十粁も離れてゐるので、萬一を慮つて海軍〇〇隊から一分隊ほどの護衛を附けて貰つた。

更にその翌日は午前中青島出張所で都市計畫、港灣、水道、電力などに關する會議を開いて意見を交換した上、午後二時ATR便で青島飛行場から北京に向つた。今まで乘り馴れたスーパー六人乗に比べると、坐席も廣く、談話も喫煙も自由で氣持がよい。

山東臺地の緑田、太沽河、膠萊運河などを眼下にして、約一千米の高度で渤海に出ると、渤海の沿岸には到るところに鹽田の適地が見出される。靜かな水面に小さな漣を立てゝ微克が帆走してゐるのが見える。小清河口、黄河のデルタの上空を通過する頃から霧が深くなつて、飛行機は高度を一千八百米に上げたが、午後四時太沽の上空にさしかゝる頃には高度を七百米に下げ、海河と京山線とに沿つて快翔を續けた。

海河を二千臺位の汽船が盛んに遡江してゐるのが見える。天津に近づくと萬國橋が見える。天津を中心として集中する白河水系の各河川や運河が蜘蛛の巣のやうに大觀される。東運河、北運河、西運河、南運河、それらは北支運河網の根幹として、やがて物資輸送の内陸水運幹線たるべく改修されなければならないものだ。

この附近は昭和十年の十二月に同じく飛行機上から視察した場所である。楊村の永定河合流點を過ぎて、なほも北西に飛ぶと北京が視野の間に現はれて來る。見覚えのある景山、故宮、北、中、南の三湖、天壇などを懐しく眺めるうちに、飛行機は一路北京の上空を通過して、昆明湖、萬壽山、玉泉山の附近まで飛び一旋回して西郊飛行場に着陸したのは午後五時だつた。

（備考）この紀行にはそれぞれ日支兩國の標準時を使つたが、日本側では大陸においても日本時間を使用し汽車なども日本時間で運轉してゐるので、支那標準時との間には一時間の時差がある。

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

文化の再建

治安の恢復されたあとに文化建設の大業が占領地域の各地におし進められてゆく。戰禍と苦難と闘爭を夢のやうに遠去の想ひ出におしやつた人々のなかから、新らしい精神の息吹きが、すこやかな時代のめざめが、今、まさによみがへらんとしてゐるものだ。

1太原の在留邦人の小さな子供たちは日本勅機關に準備な日々を給つてゐる。2南京の支那人小學校も親日維新政府の下に新らしい教科書が出來、樂しい授業がはじまつた。3北京の女學校（市立第一高女）の手藝品展覽會にも意匠は日本、材料は支那、といふ美はしい提携が芽生えてゐる。4戰火を避けて一時長崎にひきあげた上海の東亞同文書院もとの交通大學あとに再建五百人をこえる學生は江南の空に青春の希望を描いてゐる。5上海にはかつての商務印書館に代る華中印書局が出來、發刊する各地の註文に印刷インクの香りも新らしい教科書その他がどしどし刷られてゆく。6蔣介石國民政府側から接收した杭州圖書館も南京圖書館とともに興亞院華中連絡部の手で總設委員會が出來、圖書整理が着々すゝめられてゐる。

出思の初當發勃變事

海軍中佐　松島慶三

通濟橋事件と海軍の感情

「我々に長らく北支において眞に日支關係の調節に誠意を認め、その結果が表面的ではあつたが、しかも現れて北支が漸次明朗化して來たのは、昭和十一年の春で、僅も支那事變三十年の内で始めて家族を天津に移したやうな次第である」

或る將官　昨の北支駐在武官が感慨深げに語られた。

國民政府の國を擧げての抗日政策と、抗日教育の徹底とに隱忍自重を續けつゝ、營々たる平和的努力を續けて來た我が公正なる眞意も、狂暴飽くなき彼等の前には無駄に等しかつた。

一步我が讓れば彼が增長するばかりで、かゝる擧國の侮日的行動は決して陸上における

いてのみに限らず、勃海方面において我が進駐に加へられたる累狀も枚擧に遑なき程であつた。

實際政務委員長たる宗哲元が、その特殊の地位を利用して一方には日本を操り他方には南京政府と甘く跋を合せて自己の權勢の保持に努めて來たか、そして南京政府もまた宗哲元と云ふ鬼式存在を操つて、その間に漸次彼等の所謂決戰の時機を覗つて來たか、この間の複雜微妙なる關係は支那人でなければ諒解不可能なる事柄である。

かくて事件は遂に起きた。

事件が起きて遂に射撃せられつゝも、一方には彼等の非を改めようと努力した北支軍當局の態度を以て見ても我が方の眞意が如何に平和に終始したか判るであらう。

事件勃發の報が傳はつたのは七月八日の朝で私達はすぐさま所要の任務について事件の成行を注視した。

しかし事件は相當の擴大を免れず、十一日遂に順調派兵に決し政府は中外に派兵の所以を聲明した。

私の義弟の陸軍步兵大尉も某要務を帶びてこの朝北支に飛んだ。

帝國海軍は北支における陸軍の作戰行動に直接協力すると共に、一方支那各地特に山東、揚子江流域、南支那沿岸における警備任務に一層の注意を拂ひ、在留邦人の生命財產を保護すると共に、帝國の各種權益を確保するに努め、更にその優勢なる軍隊の威力により支那海は勿論、西太平洋の制海權を斷乎確保して、國防上何等の不安を無くし無言の裡に事件解決上の一大原動力となつた。

一方また帝國政府が事件の不擴大を望んでゐるに拘らず、萬一事態が全支に波及するやうな最惡の場合には、これに對する處置に必要なる準備が行はれたのは勿論である。

中支方面狀勢の逼迫

北支における我が陸軍の漸進なる行動は遂次に敵二十九軍を壓倒しつゝも、我が方針は極力北支で事件を喰ひ止めんと努力したのであつたが、中支方面に於ても一般の情勢は容易に樂觀を許さざることとなつて來た。

上海方面にあつた我が海軍當局は何時にこの間に立つて憐憫たる苦心を拂つたか想像に餘あるものがある。

上海近郊の停戰地域内に、保安隊といふ名目で支那の正規兵が遂次侵入して來り閘北、江灣、吳淞方面の防備が漸次に增大されて行つたのも此の頃である。

七月二十九日には通州、天津、塘沽方面で一齊に支那軍の攻撃が始まつた。我が駐屯軍が陸軍と協力して塘沽を占領したのや我が水上機が蘆水濼る畑の中に飛行基地を設けて陸軍作戰に協同したのもこの時である。

内地から派遣さるゝ陸軍部隊は我が海軍の優然たる護衛の下に一兵を損する事なく何等の不安なしに目的地に渡つて行つた。

この間、我が制海權の確保にして充分なるや、又支那の空軍の活躍が一層積極的であつたならばこの陸軍の派兵についても決して容易ならざるものがあつたであらう。

揚子江流域においては一旦事件勃發すれば引揚が容易でない居留民の收容について屬々議せられたが、先の通州事件にも鑑み遂に涙を呑んで引揚を斷行するに決し、八事件の勃發を豫外で知りこゝに遲く可らざる事件の擴大を豫想して悲壯な決意を以て長崎を立つた。

その夜私等は連絡艇を追起して行つた巡洋艦〇〇號、驅逐艦〇〇號こそは上海の危機を救はんと增派せられた我が艦隊及陸戰隊であり、且又呉淞砲臺の下を非常な緊張の中に通過して上海に上陸した私は既に混亂の坩堝の如き町の狀況に驚然とした。

戰火再び燃ゆ

當時私は海軍軍事普及部員として事變應急の報道任務に當つてゐた。

事件開始と共に我等の仕事が何倍にも擴大され夜はあの暑い事務室内に假製ベッドを置いて當直をした。

疲勞の燒直し見たいなベッドの狹い蚊張の中に夜は蚊軍が侵入して來てそこらに無數の辛さを儕ばせた。

八月八日上海方面の情況觀察に他の要務を帶びた私は急遽上海に派遣さるゝ事になり旅裝を調ふる遑もなくその夜終列車で東京を立つた。

義弟が北支に飛んでから約一ヶ月目で軒を並べて住んでゐた私等兄弟は二人共事變の渦中に捲き込まれる事となつたのである。

十日の朝、長崎に着いた私は、大山大尉事件の勃發を號外で知りこゝに遲く可らざる事件の擴大を豫想して悲壯な決意を以て長崎を立つた。

その夜私等は連絡艇を追起して行つた巡洋艦〇〇號、驅逐艦〇〇號こそは上海の危機を救はんと增派せられた我が艦隊及陸戰隊であり呉淞砲臺の下を非常な緊張の中に通過して上海に上陸した私は既に混亂の坩堝の如き町の狀況に驚然とした。

我が租界の周邊は十三萬の支那軍に包圍せられ三千の陸戰隊は全滅を覺悟して隱忍自重を續けてゐた。

八月十二日午後三時大山大尉射殺の三發の弔鉄消えやらぬ内に上海は正に救ふ可らざる雰行が感ぜられ租界外居留民の引揚、陸戰隊の警備配備はその夜の内に斷行された。

その夜から私は特命によつて海軍武官府に至り情報勤務に當る事になつたが、翌朝からは已に頻々たる銃聲を聞き遂に忘れもせぬ午後四時五十五分八字橋方面激戰開始の報に愈然として立つたのである。

戰火は遂に再び上海に燃え上つた。

八月十四日早朝からの敵の猛然たる砲聲午前十一時頃からの爆撃開始、最後の一員迄と戰つた陸戰隊の勇氣ある奮戰、胸の底を掻きむしる樣な敵砲彈の唸等あり、戰闘は一日々々激烈さを增して行つた。

敵空軍の執拗なる爆撃と陸軍の猛烈なる攻撃一般狀勢は誠に憂慮すべきものであり我々も寢々最後の決心をする機會に遭遇したのであつたがこの危機に直面して戰つた陸戰隊竝に陸戰隊の努力は何物にも例へ難き崇高なる大日本精神の發露そのものであつた。

あゝこれも二年の昔である。

當時陣頭に散つた雄々しき勇士達の枯骨には早苔蒸す頃であるが聖戰の前途は益甚だ遼遠なるを思はしめる。

加ふるに帝國を繞る四圍の情勢は一層我等同胞の結束奮起を促す切なるものがあるのである。

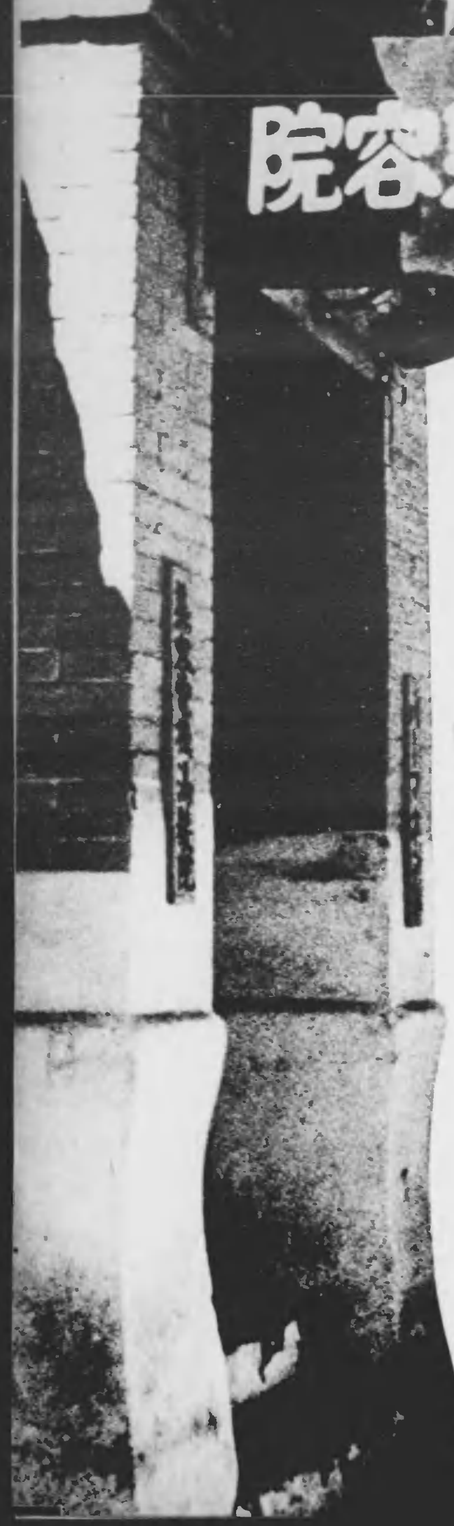
我等は東亞永遠の平和の爲に何處までも戰はねばならぬ。

一億同胞の決意と奮起は事變の將來を定める運命の鐘である。

否此以外に事局を解決する何物も無いのである。

日本色商賣往來

太原



かつては燃えきはまる抗日の據點だつた山西省の首都、太原府。この太原の街にも、皇軍の日章旗がひるがへつて一年有半、平和はよみがへり、臨時政府の治下九萬の市民はやすらかに業に勵んでゐるが、この支那市民に伍して、大陸で一はたあげようと熱意に燃える日本の商人が續々とこの街に進出、目ぬきの通りにペンキ看板の匂ひも新らしい店舗を次々とかまへ出した。——在留邦人の數は六月の調べではすでに六千人を突破、日本色、日本風景の氾濫がいたるところに見られる。然し、このやうなおびたゞしい日本人の大陸進出に混つて一部の不徳商人、内地を喰ひつめて大陸にボロいもうけでもといふ火事場かせぎ的事見の日本人がゐるといふ以てのほかの香ばしくないニュースもつたへられる。——大陸に渡る日本人はすべて興亞大業の尖兵たるべき覺悟と抱負をもつ立派な日本人であつてほしいといふのが現地當局の儘たる希望である。

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

建設途上の中支を行く

興亞院事務官　土屋四郎

上海ベンド

復興する南京の街

中支の建設は上海から

五月八日午後三時、太洋丸は靜かに黃浦江の公和祥棧橋に横付けされた。私は興亞院中華連絡部の Y 氏や K 氏に出迎へられて大陸への第一歩を印した。直ちに自動車を駆つて華中連絡部に赴き津田長官以下の人々に挨拶やら今後の旅行についてのお願ひをする。華中連絡部は數日前に新亞ホテルから海軍陸戰隊本部と道一つ隔てた隣の三階建のビルに引越した許りであつた。いふまでもなく華中連絡部は中支の新政權である維新政府に協力しながら、中支に於ける政治、經濟、文化の各方面に亙つて、日支の提携、共存共榮を主眼とする新らしい制度や組織の建設を使命とする興亞院の現地機關である。

事變後の上海は今、あのフェニックスのやうに廢墟の中から復興者、新らしい發展へと雄々しい努力をしてゐる。宛も、中支の建設は大上海より、といつた恰好である。わが無敵海軍陸戰隊將士の力强い警備によつて治安もよく確保されてゐる。事變後中支へ進出する日本人も著しく多數に上り、昨今では上海の如き既に事變前の二倍以上の五萬人に垂んとしてその結果物凄い住宅難を來してゐる有樣である。

上海には中支の經濟建設を援助助長することを使命としてゐる中支那振興株式會社もあつて大上海を中心に中支那の經濟建設に國策的活動を續けてゐる。既に同會社の投資してゐる子會社も、上海恒産會社、華中水電會社、華中電氣通信會社、華中鐵道會社等の多數に上り、中支那振興會社はこちらの子會社を通じて中支に於ける都市計畫や電氣、水道、通信、交通等の公共事業や中支としても又日本との關係からも重要な水産業や繊維等の振興助成を圖つて、中支經濟建設の大黒柱的役割を演じてゐるのである。

江南農村の復興風景

上海から南京迄は急行列車で六時間で行ける。一日一回の急行であるからもう毒司詰滿員である。一等はないが、二等、三等、四等とある。乘客は日本人も多いが大部分支那人である。

車窓から江南の農村を眺めると、天にも續くかと思はれる程の廣い沃野が展開してゐる。山や丘などは一つも見えない。クリークが縱橫に掘りめぐらされ、その線にはクリークから水牛で水を揚げるため小さな丸い臺座の小屋がいくつとなく竝んでゐる。廣野の此處彼處に木立の繁みが見えるのは部落のあるところだ。島の中にある土饅頭は墓場である。そしてこの廣い沃野が一寸の土地をも惜しむかの如く美しく耕されてゐるのである。江南の五月半はもう農夏のやうに暑い。この烈日の下で、勤勉な農夫は水牛をも含めての一家揃つて、よくみのつた麥の刈取や、刈取後の水稻の植付準備にまつ黒になつて働いてゐる。彼等は戰爭中は何處かに隱れてゐるが、戰爭が止むと、またすぐ戻つて來て、營々として土を耕すのである。彼等には蔣介石も國民黨も、共產主義もない。唯、あるのは土に働くことのみであるやうだ。この勤勉な、この正直な、この無智な支那の農民に、農村に、本當の幸福と秩序を與へてやることは確かに一つの大きな尊い仕事でありそこにこそ本當の新らしい亞細亞建設の鍵があるのだ。阜單占領地區內の秩序に信賴してかうして復歸した農民も今では九割以上に達してゐる。小麥と蠶豆と菜種が殆んど全部である沿線の農作物は何れも良くみのつて農民を喜ばせてゐるとの事だつた。今後はこの農民に技術と、合作社等の協同組織とを與へて、農作物の品種の改良や、販賣、金融等の方面を改善してやることが農村振興の要點でなければならぬ。

維新政府の所在地南京

南京略治權既に一華半餘、政治都市南京の秩序もすつかり回復され、今は維新政府の所在地として中支建設の政治的中心をなしてゐる。人口も五十萬以上に增加した。この街は元來政治文化の中心地であるから商業的設盛さはないが、道路等も綺麗され市區も整つて落付いた街である。蔣介石時代には大いにこの方面に意を用ひたとの事である。附近には丘陵が多い。これ等の丘陵は何れも南京城攻略戰に於て阜單將士の尊い血を流した激戰地とて、思はず襟を正し地下の英靈に感謝の默禱を捧げた。南京の上流蕪湖は長江流域に於ける有數の米の集散地である。

漢口の復興ぶり

漢口は揚子江流域に於て上海に次ぐ大貿易港だ。長江と漢水を隔てゝ政治、軍事の都市武昌と工業都市漢陽が鼎の足狀をなして事變前は頗る殷盛を極めた所だ昨秋阜單の武漢攻略後また半年に過ぎないが、茲に武漢特別市政府も成立を見武漢の復興に涙ぐましい努力を續けてゐる。事變後支那人の復歸する者も多く漢口の人口は既に八十萬人に達してゐる。日本人も相當に進出してゐるやうだ。元來、漢口は四川、湖北、湖南、河南地方の物產、就中雲南四川省の物產のはけ口であつて、奥地から上海に出で外國に輸出されるのだ。事變前奥地から漢口に出廻つた重要物產及びその數量をあげると、

棉花	一二〇萬ピクル	生漆　西萬ピクル
桐油	二七〃	牛皮　一三〃
茶	一〇〇〃	胡麻　一〇〇〃
豚毛	二〇〃	葉煙草　四〇〇〇萬ポンド

なほ表の茶の中で武漢地方特產の磚茶のことを忘れてはならぬ。磚茶は蒙古人の唯一のヴィタミン補給劑として蒙古人の生活には缺くことの出來ない重要食糧品である。事變前は武漢地方の磚茶製造販賣はソ聯に獨占され、ソ聯はこの磚茶を掠奪ことによつて外蒙人を手懷け途に外蒙古を支那から孤立せしめたといはれてゐる位蒙古人の宮廷には切つても切れぬ大事な物產だ。今はこの磚茶も親日支那人及び日本人の手に歸して、その復興を急いでゐる。

興亞院事務官　杉山知五郎

五月二十六日、船で廣東へ、その後の廣東の街はどうなつてゐるだらうと色々胸に想像を描きながら珠江を溯つて、廣東に到着。

廣東の街に入つて驚いたことは人が非常に殖えたことだ。去年の十二月二十日治安維持會が誕生して市街の治安が維持されてからは元々廣東に住んでゐた支那人住民は大挙に家財を持つて歸つてきたのだつたが、この二、三月ごろにくらべると日本人もすつとふえてゐる。凡その調査では廣東全市の人口は六、七十萬にもなつたといふことである。

珠江から南の地域はその復舊に未だしの感はあるが、珠江から北は中々賑やかなものだ。日本人の經營する飲食店、雜貨店等もなつかしい日本流の看板を揚げて繁昌してゐるし、映畫館には日本の映畫がかゝつてゐて、有名な俳優の寫眞がすらりと竝んでゐるのもうれしいものだ。こゝの飲食店に入るとよく中庭には椰子や檳榔子等の熱帶植物が鬱蒼と茂つてゐる。この下でテーブルを圍んでアイスクリーム等を食べてゐると、いかにも熱帶地方に來たやうで興趣がある。戶外の暑さはすつかり忘れて實に涼しい。廣東の雨期（三、四、五月頃）は連日雨を滴らすやうな雨でやり切れないが、六、七月頃になると、空氣が乾燥して、暑いことは暑いが、かういふオアシスがあるから反つて住みよくなる。

日本人が殖えて、日本語が幅を利かせ、新聞も、支那字新聞（廣東迅報）の他に日本字新聞「南支日報」が發行されてゐるが、支那住民の間にもこのごろは日本語熱がしきりに勃興してゐて、例へば、支那人經營の飲食店へ行つて我々が下手な支那語や英語でぽつり〳〵注文をはじめると、給仕の姑娘が鮮やかな日本語で話を中途から引取つて、われ〳〵をあつけにとらせたことが屢々あつた。

姑娘といへば、廣東の姑娘は、北支のものに比べると非常に近代的なものが多い。パーマネントをかけ白粉も、口紅もうまくぬつて、大通を濶歩してゐる北支女の淑やかなのに比べると、活潑でむしろお轉婆な女が多いといへる。この姑娘に見られる性質は廣東人一般に就いてもいへることで、廣東人は元々日本人に似て非常に進歩的、積極的な所がある。海外への出稼商人、即ち華僑で廣東出身のものが文馬全土中一番多いことも其の一つのあらはれである。廣東の郊外に一九一一年の辛亥革命（孫文の起した清朝覆滅の革命）に殪れた七十二烈士の墓があり、孫文の題字を刻んだ石碑が立つてゐて、參詣する市民の數が絶えないが、廣東はこの革命に際しても大きな犧牲を拂つて率先參加してゐる。又いまから四五年前、西南派軍閥と中央軍閥との抗爭時代から廣東の近代工業化を阻止し、經濟三ケ年計畫を樹て、廣東には近代的な省營工場を建設して、物資の自給自足を圖り、珠江に臨む黃埔には築港を構築し、香港に拮抗しようとした氣魄にもみられよう。その後、西南派は國民政府のために中央に統一され、近代的經濟力をもつ全省はあげて抗日戰に參加し、廣東はその本據となつたが、彼等が國民政府の命のまゝに抗日に狂奔しつゞけたのは、彼等が丸で日本女か、日本人を知らなかつたためではなからうか。廣東は地理的にいつても日本からは非常に遠いし、わづかな在住日本人に比べると、英人などは遙かに多く、貿易上から見ても對日貿易より對英貿易の方がずつと多いので、英人は偉いと思つてゐるが日本人は殆んど眼中に置かず、日本の偉大さや日本人の强さについては丸で知つてゐなかつたのだ。百聞におよず、といふが、廣東人の抗日はこの類ひではなかつたらうか。

いまや、不逞分子に此の騷動をも許さぬわが武力が建設力の偉大さを目前に見ては廣東人の日本人に對する認識は改まらざるを得まい。實際此も暑い中を活潑してゐるが、完璧をうける支那人の表情を見ると、占領當時の敵愾心が次第に融け去つて來てゐるやかな日本語で話を中途から引取つて、われ〳〵をあつけにとらせたことが屢々あつた。

姑娘といへば、廣東の姑娘は、北支のものに比べると非常に近代的なものが多い。パーマネントをかけ白粉も、口紅もうまくぬつて、大通を濶歩してゐる北支女の淑やかなのに比べると、活潑でむしろお轉婆な女が多いといへる。この姑娘に見られる性質は廣東人一般に就いてもいへることで、廣東人は元々日本人に似て非常に進歩的、積極的な所がある。海外への出稼商人、即ち華僑で廣東出身のものが文馬全土中一番多いことも其の一つのあらはれである。廣東の郊外に一九一一年の辛亥革命（孫文の起した清朝覆滅の革命）に殪れた七十二烈士の墓があり、孫文の題字を刻んだ石碑が立つてゐて、參詣する市民の數が絶えないが、廣東はこの革命に際しても大きな犧牲を拂つて率先參加してゐる。又いまから四五年前、西南派軍閥と中央軍閥との抗爭時代から廣東の近代工業化を阻止し、經濟三ケ年計畫を樹て、廣東には近代的な省營工場を建設して、物資の自給自足を圖り、珠江に臨む黃埔には築港を構築し、香港に拮抗しようとした氣魄にもみられよう。その後、西南派は國民政府のために中央に統一され、近代的經濟力をもつ全省はあげて抗日戰に參加し、廣東はその本據となつたが、彼等が國民政府の命のまゝに抗日に狂奔しつゞけたのは、彼等が丸で日本女か、日本人を知らなかつたためではなからうか。廣東は地理的にいつても日本からは非常に遠いし、わづかな在住日本人に比べると、英人などは遙かに多く、貿易上から見ても對日貿易より對英貿易の方がずつと多いので、英人は偉いと思つてゐるが日本人は殆んど眼中に置かず、日本の偉大さや日本人の强さについては丸で知つてゐなかつたのだ。百聞におよず、といふが、廣東人の抗日はこの類ひではなかつたらうか。

いまや、不逞分子に此の騷動をも許さぬわが武力が建設力の偉大さを目前に見ては廣東人の日本人に對する認識は改まらざるを得まい。實際此も暑い中を活潑してゐるが、完璧をうける支那人の表情を見ると、占領當時の敵愾心が次第に融け去つて來てゐる。

五月三十一日、海口に入る。こゝの港は海が淺いので、沖で荷揚げをしたり、人を降ろさねばならないの。所が、波が高い時が多いので荷物を舢に積降ろすのも、船客が舢に乘り移るのも中々困難との話だ。海南島ではこの頃から秋へかけて季節風が非常に强く吹く。はじめのうちはこゝから香港の方へ吹きつけるが、これが次第に方向を轉換して九月の二百十日頃には內地へ向けて恐ろしい颱風を送る。が、いづれにしても五月の中旬ごろから十月頃までは毎日のやうに强い風が海南島に吹きつけるので、海上交通は困難を極めるし、殊に、農作物はいつも危險に曝されてゐることになる。

海南島は產石に富む。朝夕は割合涼しいが、日中はまだ六月になるやならずだといふのに攝氏三十五度を超える。それに木立が少いので餘計に暑さが身にこたへる。その上こゝも南支一帶の例にもれず、飲水が少い。街頭の堂々たる外觀には似ず、この街にはまだ廣東のやうに水道がないので、街の所々にある掘拔井戶の圍りには黑い服をきた女たちが集つて石油罐の鈑金で拵つて水を汲んでゐる。汲みあげる水は割合に綺麗であるが、何分にも井戶の數は人口に比べて非常に少いから、炎天下の市民に配給される飲料水の量は極く少い。わが警備兵なども一ケ小隊に石油罐一杯づゝの清水しか配給されてゐない。からいふ困苦と闘ひ、而も炎熱下の埠頭に、街角に日燒した顏から淋漓と汗を滴らしながら嚴然と警備の任に當つてゐるわが將兵の勞苦にはたゞ頭をたゞ下げるばかりである。

街外れの一寸した木蔭に屯してゐる小隊がもつた髮ぼう〳〵の顏にしづかに郷子の葉製の團扇を使つてゐる隊長に「御苦勞樣です」と心から感謝の辭をのべると、「暑いのは何でもありませんが、水がほしいですな、南支へ來ると誰でも一番氣にかゝるのは水です。明けても暮れても黃色く濁つた水にクレオソートを入れて病菌を氣にしながら飲まねばならない。こゝには割合きれいな水が湧くが、御覽の通りやつと渴を醫やすにも足りない貴重さです。きれいな澄み切つた水を何の心配もなくがぶ〳〵飲むことが出來、その上度まで透き通つてみえる風呂にトツプリつかることの出來る內地のことを思ひ出すといや、さういふ夢を私等は何遍も見ますよ。思ひ出袋は時たま屆きます。何しろ內地から一番遠い戰地になるんですから、嬉しいですね。殊にいちらしい小學生などからの手紙をもらふと、この通りいかつい樣好をした連中が目に涙をためて讀んでゐますよ」

海口には既に治安維持會の準備會が生れて、街の治安狀況は非常に良い。殊に海口市は、阜單が上陸した折、兵火を蒙ることが少かつたし、街路にも廣東のやうに防空壕を掘るとともなく家屋にカモフラージュを施こしたりすることもなかつたので、街全體が戰爭を知らなかつたやうに美しく、そのまゝである。

海口市附近住民の生業は漁業、農業が主なもので米はもう今年二度目のものが穫れてゐたのには驚かされた。

海口市の貿易狀況は試みに昨年のものを調べてみると、輸出が三六一萬弗（法幣）、輸入が四二七萬弗、差引六十六萬弗の輸入超過になつてゐる。この不足額は何で補つてゐるかといふと、海南島からは約十萬人の華僑が佛領印度支那、シンガポール方面等に出稼に出てゐて、これら華僑からの送金が毎年四五百萬弗から六七百萬弗に達するので、これだけの輸入超過があつても平氣といふわけである。輸移出の主なものは砂糖、鹽、牛皮、鹽等、輸移入の主たものは、ガソリン、石油、綿絲布、綿毛織物、タバコ、マツチ、大豆、洋雜貨等であるが、最近上の調査はまだ〳〵行き屆いてゐない。

海南島はマラリヤの島だ、氣をつけないと生命を落すぞと、おどかされて來たが、さて來てみると、それほどではない。成る程、蚊を避けるために、何處でももう蚊帳を吊つて寢てゐるが、奥地ならいざ知らず、日本人が住まうといふ位の所ではそれほどの危險はないといふことである。その上、警備の皇軍在住日本人のために衞生面から醫者がやつてきて、豫防に治療に當つてゐる。南進日本がかつて臺灣統治に際して苦めた熱帶病に對する苦い經驗が、いま更に一層南進した大和民族の健康保持に大いに役立つてゐる。

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

新鮮果實そのまゝの爽やかな香味

明治ジユース

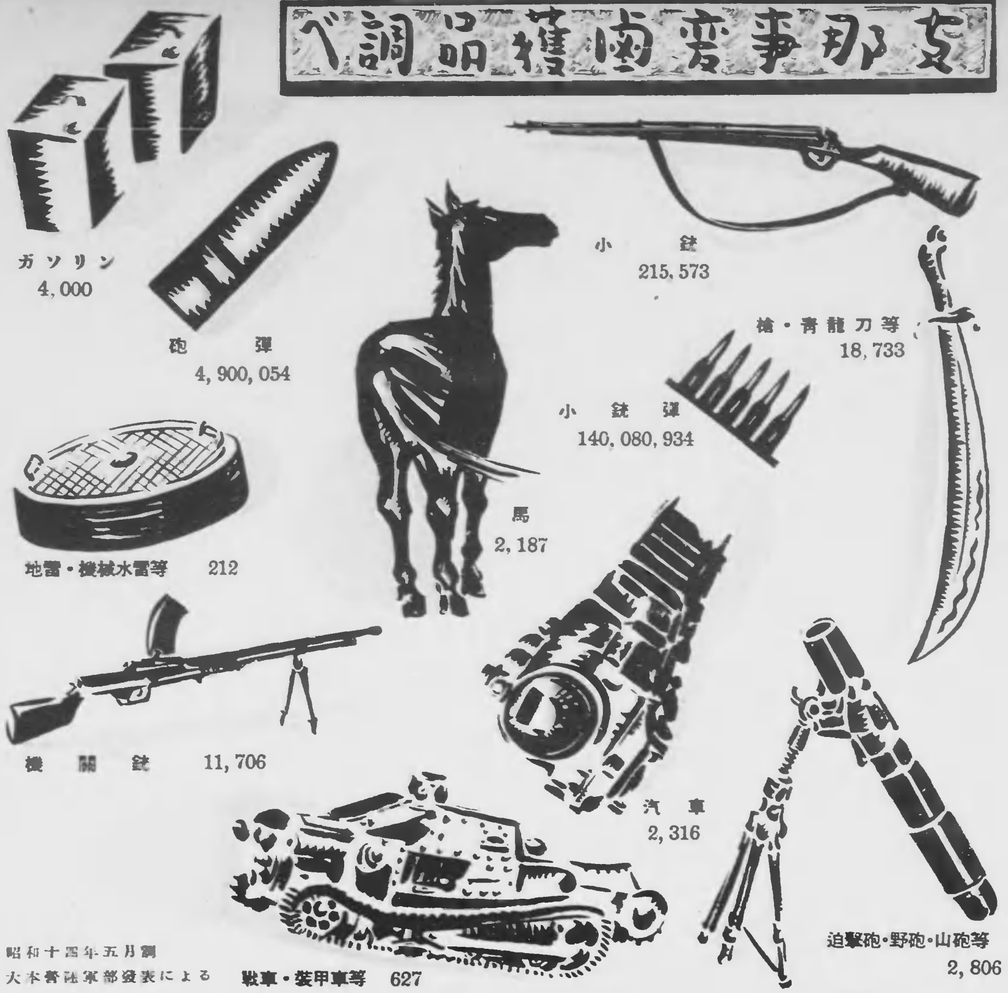
快い舌觸り（よろゝこ）

夏隨一の飲みもの

アップルツ
パイン
グレープ

明治製菓株式會社

支那事變鹵獲品調べ



復習室

本號からあなたは何を學んだでせうか？左の問題は總て本號の中にあります。さあ、復習をやりませう。

1 上海―南京間はいま急行列車で何時間かゝりますか？……（15頁）

2 蘆溝橋は何省にありますか？……（3頁）

3 親日教科書は主としてどこで印刷されますか？……（18頁）

4 上海の街をゆくと「公共汽車車站」と書いた標札が立つてゐます。どういふ意味ですか？……（14頁）

5 海口の貿易は輸入超過になつてゐますが、この不足額は何で補つてゐますか？……（23頁）

6 維新政府の所在地はどこですか？……（22頁）

7 眞茹無電臺はどこと通信してゐますか？……（10頁）

8 石景山製鐵所はどこが經營してゐますか？……（8頁）

9 漢口の人口はいまどの位ありますか？……（22頁）

10 支那で特產される棉花は一年にどの位ありますか？……（4頁）

右の問題、一問十點としてあなたは何點でせう。

★表紙
帝堯、四千年の昔、天子の名も知らず鼻唄をうたひながら土壤を耕す農夫の物語りは治國の理想としてながく靑史に傳へられた。今とりいれをしたばかりのむせるやうな小麥の束を前に四千年の昔の血をそのまゝ繼ぐ大地の子は、空へすゝけた、たゞ胸から腹に深く吸ひこむ安タバコの一服を樂しむ。

撮影 同盟通信社

寫眞週報（禁轉載）

昭和十四年七月五日印刷發行

編輯兼發行者 內閣情報部
東京市麹町區永田町
大藏省印刷局大蔵省内

印刷者 內閣印刷局
東京市麹町區大手町

定價 一部 十錢
半ケ年（前金）二圓四十錢
一ケ年（前金）四圓八十錢
（郵税不要）
（外地は實費に依る場合は一ケ年九圓十二錢）
半ケ年分未滿配給御希望の方は一部十錢の割合を以て前金を添へ御申込み下さい

申込所
內閣印刷局發行課
電話丸ノ內(23)三五一九
振替東京一九〇〇〇
全國各地官報販賣所
東都書籍株式會社
各書店・驛賣店
各新聞販賣店
寫眞材料店

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

寫眞週報　昭和十三年二月十二日　第二種郵便物認可　昭和十四年七月五日發行　（毎週二回水曜日發行）　第七十二號

觀光滿洲

内地・朝鮮から
往復・回遊汽車賃

單　獨	一〇人以上	二割引
團　體	二〇人以上	三割引
學生團體	五割引以上	五割引

詳細は滿鐵鮮滿支案内所へ

東京丸ビル　同赤坂葵町
大阪梅筋　名古屋廣小路
門司稅關前　下關驛前
新潟古町通

内閣印刷局印刷發行

（判倍「報週」・A4格納定規はさ大の書本）

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/